

PR 隊長「まゆまろ」七変化

中丹広域振興局企画総務部

【概要】

- 平成 16 年 5 月の地域機関の再編により、「中丹広域振興局」が誕生し、まもなく 7 年が経過しようとしています。広域化になり、府政の PR、職員間の連携がますます重要となってきています。
- そこで管内府機関が一体となって府の役割・取組を総合的・集中的に府民に紹介・PR するため、平成 20 年度から「中丹元気市」を開催し、本年秋開催の「国民文化祭・京都・2011」（以下国文祭）に向けて、中丹元気市で培った職場、職員の連携をいかし中丹広域振興局独自の様々な形での PR を行いました。各総合庁舎では、女子職員による手作り「まゆまろ」を作成し、来庁者にも国文祭を知ってもらうきっかけとなりました。
- このような独自の様々な取組は、中丹広域振興局に勤務する職員が「やらされ感」からではなく、自発的にうまれてきたものであり、この元気は、地域の元気に必ずつながっていくものと考えています。

背景

- ◇平成 16 年 5 月、地域機関の再編により、新たに「中丹広域振興局」が誕生し、まもなく、7 年が経過しようとしています。再編により、綾部、福知山、舞鶴地方振興局が「中丹広域振興局」となり、府政の PR、中丹地域としての一体感、また、管轄区域も広域となり、職員同士の連携も希薄になりがちでした。
- ◇様々な機会を通じた府政、「中丹」の PR を行っていくためには、広域化を機に職員の仕事のあり方を考える必要がありました。
- ◇そこで「中丹広域振興局」の PR と職員間の連携を図る取組として、「中丹元気市」を開催し、平成 20 年度は綾部市、平成 21 年度は福知山市、平成 22 年度は、福知山市で開催しました。各市、団体とも連携し、すべての管内公所が参加し、パネル展示、住民参加の催しなど各公所で創意工夫した展示等により公所の PR を行いました。



◇また、今年度開催される国文祭については、まだまだ府民にはPR不足であるため、独自に国文祭のPRを積極的に行いました。

◇「中丹元気市」を通じ、中丹管内の組織の連携、また職員の連帯感が強まったことから、国文祭のPRについても、職員自ら各総合庁舎等での手作り「まゆまる」等を作成するなど、自発的な取組ができました。



目的

「中丹」が元気であるためには、府職員が元気である。府職員も率先し地域イベント、事業に参加することが必要。それが、地域振興につながり、職員満足、府民満足につながる。」との思いから職員のやらされ感からではなく、自発的な取組により、「中丹」を元気にしたいと考えました。

取組

◇中丹元気市

- ・平成20年度には、綾部市、平成21年度は、舞鶴市、平成22年度には、福知山市で開催。各市、団体等とも協働し、府政のPR、職員の連帯感の強化を図りました。
- ・管内全公所が参加し、パネル展示や参加型催しを各公所で創意工夫して実施しました。
- ・管内市、管内の団体と連携協働し、「中丹」としてのPRをしました。

◇国文祭PR

- ・開幕1000日前には、府内で初となるカウントダウンパネルを職員の手作りで作成しました。
- ・中丹広域振興局オリジナルの懸垂幕、横断幕を管内の総合庁舎、文化施設等10カ所で掲示しました。
- ・「中丹」の文化イベントをつなぐ「由良川・里山文化プログラム」を作成し、スタンプラリーも実施しました。
- ・「まゆまる」も毎週のように、地域イベント等に出動しています。



◇福知山総合庁舎での取組

- ・来庁者に「まゆまる」を知ってもらうことにより、国文祭をPRし、玄関・府民ホールを明るい雰囲気にするため、季節に応じた手作り「まゆまる」の作成をしました。
- ・女子職員全員でアイデアを出し合い、それぞれの得意分野で力を発揮し、「まゆまる十二景」を完成させ、地元新聞にも大きく取り上げられました。
- ・「まゆまるカレンダー」も作成し、府民の皆さんが家庭でも使えるようHPでもダウンロードできるようになっています。
- ・この取組は、総合庁舎内だけでなく、京都府北部家庭支援センターでは一時保護の子どもたちが自分で飾り付けを工夫するなど、取組の環は確実に広がっています。



◇地域での取組

- ・各市でも様々な取組へと広がりを見せています。
- ・福知山市の「田んぼアート」、舞鶴市の「ペットボトルの光のオブジェ」、綾部市での「バームクーヘン」の製造など、府民の皆さんと一緒に取り組む気運が広がっています。



効果

◇平成20年度からの「中丹元気市」開催により、「中丹」としての一体感の醸成が図れました。また、公所が離れていることから職員同士の連帯感も生まれました。

◇地域が元気になるには、まずは、職員が元気になることが大切です。また職員が地域の行事にもどんどん参加し、楽しみ、地域に溶け込むことで、少しでも地域振興につながっていき、このことが、職員満足、府民満足につながっていくものと考えています。



現在

◇現在でも、今年秋に迫った国文祭の成功に向け、中丹としてますますPRするため、職場をあげ、地域をあげた取組を進めています。

- まゆまろイベントカレンダーの毎月更新（地域イベントのお知らせ）
- 未来にリンク、由良川・里山文化プログラム（春）の発行
- 大丹波文化連携事業の実施

振り返りと今後の課題

◇「中丹元気市」を通し、「中丹」としての一体感、職員の連帯感が生まれ、このことにより、国文祭のPRの取組も「中丹」あげて実施できることになりました。同じ目的ですすむことにより、一体感、連帯感も生まれました。

◇地域の活性化のためには、全職員が同じ意識をもち、同じ目的にそって進んでいく必要があり、職員満足、府民満足をさらに「中丹」から発信していきたいと考えています。



企画総務課コメント

広域振興局内の庁舎間の連携を深めるため、始まった「中丹元気市」をベースに継続した取組になっています。

国文祭を「中丹」で盛り上げるという目的を共有化し、職員が一体感をもち、モチベーションの向上につなげたところがポイントです。

今回の取組が継続し、連続した取組となるよう職員間で活動の内容やテーマを広げていくことも重要です。